

江陵高書道部 全国団体賞

幕別 創部8年で初の快挙

【幕別】江陵高校（鈴木讓二校長、生徒336人）が第54回全国学生書道展の団体賞を受賞した。書道部（中村奈々美部長）は創部8年目で初の快挙。出品した部員は卒業した3年生2人を含む6人と少人数で、高校から本格的に書道始めたメンバーばかりだが、こつこつと腕を磨いた成果が実を結んだことに喜んでいる。

部員6人「うれし涙」

同展は公益社団法人創玄書道会主催。全国の幼児から高校生までを対象とし、今回は2万4922点の応募があった。団体賞は入賞入選数が多い上位72団体に贈呈。管内高校からは江陵のほか、書道部（小池このみ部長）の1、2年生12人ら生徒たちが110点を出品

した帯広三条も選ばれた。江陵は計100点を出品。部員6人の12点の他、今回初めて学校の授業で書いた生徒たちの作品も含めた。

出品した2点がともに学年優秀賞（424点）に選ばれた中村部長（2年）は「自分たちの努力が認められたことがうれしい」、山田愛花副部長（同）は、昨年は個人で賞を取れず、今年は（創玄書道会）奨励賞に選ばれたのがうれしくて泣いてしまったと笑顔を見せる。

書道部発足時から顧問を務める石原伸弥教諭は教員歴も8年目。「ここ数年で自分が伝えたいことを生徒が受け止め、作品に反映してくれるようになった」と歩みを振り返る。部員の橋爪亜依さん（2年）は「人数が少ない分、積極的に批評し合える」とし、杉亮兵さん（1年）は「先生、先輩方に優しくしてもらって感謝したい」と話す。

部員の作品を含めた上位約2000点は14日までの6日間、東京都美術館に展示された。中村部長は「努力した分うまくなり、自分を表現できるのが書道の魅力。さらには上の賞を目指し、互いに高め合いたい」と話している。（松村智裕）



団体賞を喜ぶ江陵高書道部。右から中村さん、山田さん、橋爪さん、杉さん